

JA福島さくら 概要 2024

【編集・発行】令和6年7月11日 発行
福島さくら農業協同組合 編集事務局（企画部企画課）
〒963-8502 福島県郡山市朝日二丁目14-7
TEL.024-922-3733 FAX.024-923-8904



シンボルマーク

太陽をイメージした濃いピンク色の円はJA福島さくらの象徴である「さくら」を照らし、福島の豊かな自然を表す緑と水色はそれを包み込む。自然と共に歩む「JA福島さくら」を意匠化しました。

沿革

- 平成28年3月 JA郡山市、JAたむら、JAいわき市、JAいわき中部、JAふたばの5JAが合併し、JA福島さくらが誕生
- 平成29年8月 ベトナムへ梨初出荷
- 平成30年3月 富岡農業資材センターが新店舗で営業再開
- 平成31年3月 ㈱JA和牛ファーム福島さくら共同牛舎完成
- 令和元年5月 ふたば地区本部及び富岡支店が新店舗で営業開始
- 令和2年9月 小規模多機能型居宅介護施設「は～とらいふ小野・やまだ」オープン
- 令和3年3月 移動金融店舗車「さくらちゃん号」運行開始
- 令和4年3月 大熊町に大熊給油所リニューアルオープン
- 令和5年3月 浪江町育苗施設稼働開始
- 令和6年6月 富岡町野菜集出荷施設稼働開始



JA FUKUSHIMA SAKURA

JA福島さくら 概要 2024

〳〳 JA福島さくらは様々な形で情報を発信しています! 〳〳

公式HP



LINE



YouTube



facebook



Instagram



とれたて! TORETATE
JA福島さくらの
最新情報サイト



 JA福島さくら



経営理念

農業の振興と 地域社会への貢献

～「緑の輝き」「地域の輝き」～

志賀 博之 福島さくら農業協同組合 代表理事組合長

組合長あいさつ

平成28年3月にJA福島さくらが誕生し、組合員の皆様に支えられ、今年で9年目を迎えることが出来ました。これもひとえに組合員をはじめ、地域の利用者、管内市町村並びに各関係機関の皆様のJA運営、事業各般にわたる深いご理解と、変わらぬご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

当JAは「農業の振興と地域社会への貢献」～「緑の輝き」「地域の輝き」～という経営理念の下、令和6年度は第3期中期3か年計画の最終年度として、園芸ギガ団地の形成に向けた取り組みと農産物の海外輸出体制の再構築、農家応援団事業等のJA助成事業を有効活用したコスト低減対策を推し進めてまいります。今後とも「創造的自己改革」の重点課題である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」に取り組み、魅力あるJAを目指して、日々あらゆる事業に邁進してまいります。今後とも益々のご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

福島さくら農業協同組合

福島県郡山市朝日二丁目14番7号



組合員数	役員数	職員数
総数 71,608人	総数 45人	1,152人
正組合員 38,339人	(理事) 40人	
准組合員 33,269人	(監事) 5人	

事務所所在地 郡山市、田村市、田村郡三春町・小野町、いわき市、双葉郡広野町・楢葉町・富岡町・川内村・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村

SDGs

当JAが掲げる「農業の振興と地域社会への貢献」という基本理念は、SDGsが掲げる「誰一人取り残さない」と共通します。SDGsはすべての国と人々が目指す共通の目標で、世界中の人々がそれぞれの活動を通して、持続可能な世界をつくることに取り組んでいます。当JAの特性を活かし、事業や活動を通じて組合員と地域の暮らしを守ることを目的に、SDGsの目標達成に寄与してまいります。

自己改革の実践

「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を目標とし、「不断の自己改革」の実践に総力を挙げて取り組んでいます。当JA不断の自己改革の実践として、組合員に対する支店・事業所・各課において目標を掲げ取り組んでおります。



JA福島さくらイメージキャラクター

さくらちゃん

さくらウェイ SAKURA WAY

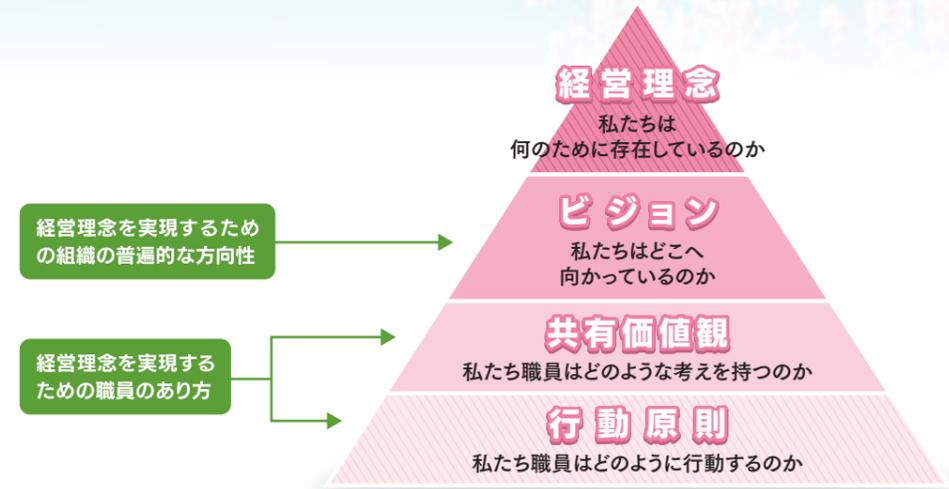
さくらウェイ

うみ 湖から洋へ うみ

JA福島さくらと地域をつなぐ行動指針

経営理念である「農業の振興と地域社会への貢献」の実現のために必要な職員のあり方や組織の普偏的な方向性を明示し、職員全体で意識を共有するために策定されたものが「さくらウェイ」です。

当JAと地域をつなぐ行動指針を明記することで役職員が価値観を共有し、業務に取り組むものとしています。



経営理念

私たちは何のために存在しているのか

農業の振興と地域社会への貢献
～「緑の輝き」「地域の輝き」～

2つの輝きは「農業の振興」と「地域の振興」の意味が込められています。

緑の輝き

「地域の元気でたくましい農業」「美しくかけがえない自然」「農家組合員の活力ある営農の姿」を表しています。

地域の輝き

「地域社会の発展」「健康で心豊かな暮らし」「次代の子どもたちの姿」を表しています。

共有価値観

私たち職員はどのような考えを持つのか

- 農業が大事
- 組合員・利用者が大事
- 職員・仲間が大事
- 本気になれば世界が変わる
- 仕事が好き
- 地域が大事

ビジョン

私たちはどこへ向かっているのか

より身近に、より信頼される
JAづくりの実践

わたしたちは地域の農業を振興し、ふるさとのかけがえない自然を守り、健康で心豊かな暮らしづくりを応援します。そして愛され信頼されるJAをめざして、誠実に、着実に歩みます。

行動原則

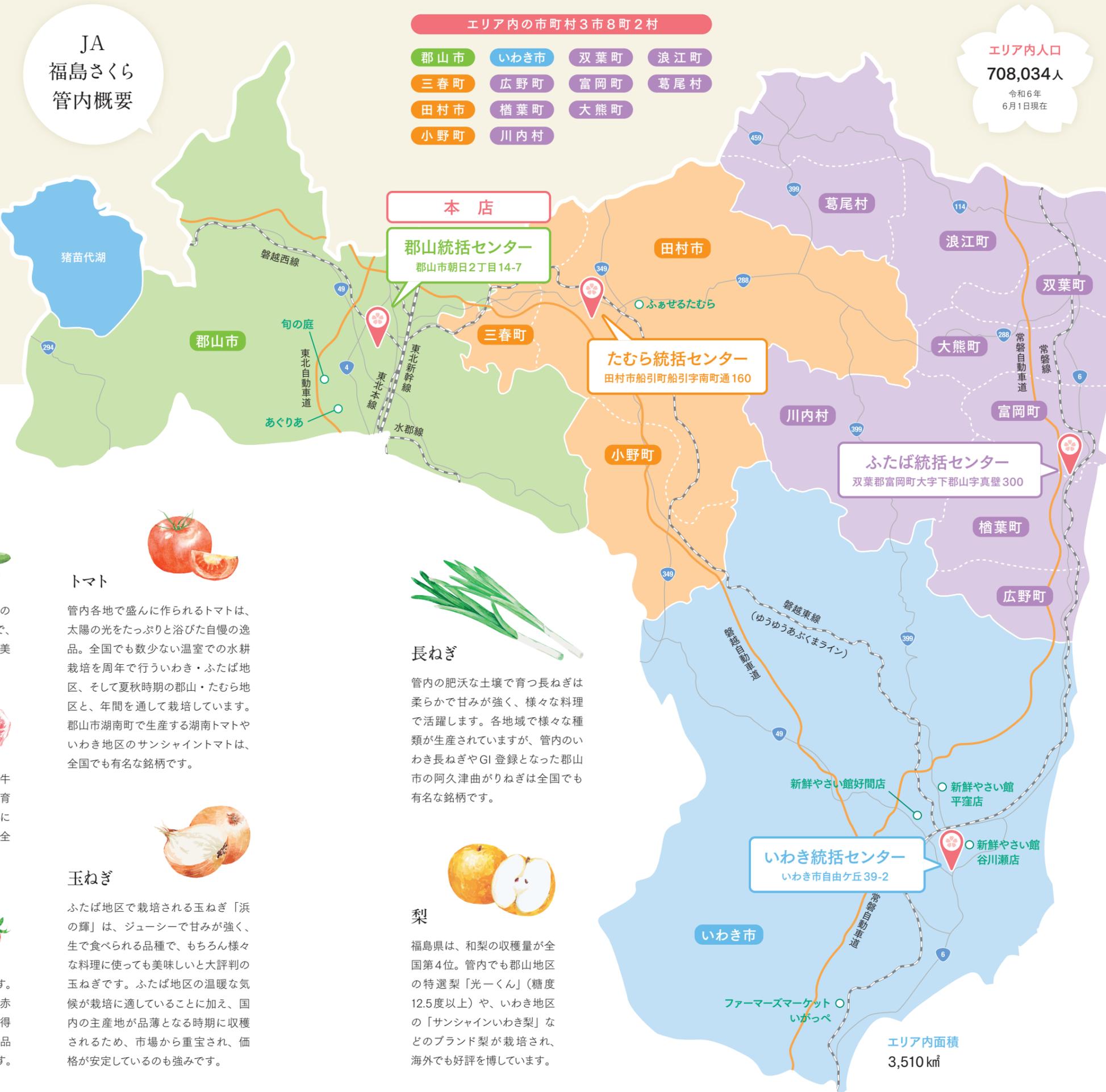
私たち職員はどのように行動するのか

- 農業の発展に寄与しよう
- 笑顔で迅速に対応しよう
- 相手を尊重しよう
- 知識を深め自分の役割を果たそう
- 地域に貢献しよう
- ありがとうをふやそう
- 新しい考えを提案しよう

福島県内
各JA



JA
福島さくら
管内概要



エリア内の市町村3市8町2村

- 郡山市
- いわき市
- 双葉町
- 浪江町
- 三春町
- 広野町
- 富岡町
- 葛尾村
- 田村市
- 檜葉町
- 大熊町
- 小野町
- 川内村

エリア内人口

708,034人

令和6年
6月1日現在

さくらの主要農畜産物

米

管内は豊かな気候風土に恵まれた日本屈指の米どころ。地域の特性を活かした米づくりが盛んに行われており、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」「天のつぶ」などの銘柄米が生産されています。

また、日本一厳しい7つの生産基準を満たす福島県郡山産米最高級ブランド「ASAKAMA1887」や、太陽の恵みをたっぷり浴びて育ったいわき産コシヒカリ「Iwaki Laiki (いわきライキ)」は当JA自慢の米です。

ピーマン

田村市・田村郡をはじめとする阿武隈高原ではピーマンの栽培が盛ん。管内で栽培されているピーマンは、甘みが強くやわらかいと高い評価を得ています。福島県トップクラスの収量を誇るピーマンは、お子さんでも丸かじりが出来る美味しさです。

きゅうり

郡山地区を中心に栽培されている夏の味覚。みずみずしく爽やかな味わいで、生のままはもちろん、漬物にしても美味しく頂けます。

牛

管内各地で和牛子牛の生産や肉用牛の肥育が盛んに行われています。肥育ブランドの維持拡大と生産基盤強化に向けた素牛預託事業に取り組み、安全で美味しい福島牛を生産しています。

いちご

管内各地でいちごが生産されています。生産者が丁寧に作り上げる甘くて美しい赤い宝石は、冬の味覚として高い評価を得ています。いわき地区では福島県奨励品種「ふくはる香」を中心に栽培しています。

トマト

管内各地で盛んに作られるトマトは、太陽の光をたっぷりと浴びた自慢の逸品。全国でも数少ない温室での水耕栽培を周年で行ういわき・ふたば地区、そして夏秋時期の郡山・たむら地区と、年間を通して栽培しています。郡山市湖南町で生産する湖南トマトやいわき地区のサンシャイトマトは、全国でも有名な銘柄です。

玉ねぎ

ふたば地区で栽培される玉ねぎ「涙の輝」は、ジューシーで甘みが強く、生で食べられる品種で、もちろん様々な料理に使っても美味しいと大評判の玉ねぎです。ふたば地区の温暖な気候が栽培に適していることに加え、国内の主産地が品薄となる時期に収穫されるため、市場から重宝され、価格が安定しているのも強みです。

長ねぎ

管内の肥沃な土壌で育つ長ねぎは柔らかく甘みが強く、様々な料理で活躍します。各地域で様々な種類が生産されていますが、管内のいわき長ねぎやGI登録となった郡山市の阿久津曲がりねぎは全国でも有名な銘柄です。

梨

福島県は、和梨の収穫量が全国第4位。管内でも郡山地区の特選梨「光一くん」(糖度12.5度以上)や、いわき地区の「サンシャインいわき梨」などのブランド梨が栽培され、海外でも好評を博しています。

地域とJAの関わり・自己改革

SDGsの取り組み

JA福島さくらはSDGsに取り組んでいます。
JAは組合員がお互いに協力して助け合う相互扶助の精神を基盤としており、「誰一人取り残さない」を掲げるSDGsの行動理念と通じるものがあります。
JA福島さくらでは、組合員と地域の暮らしを守ることを目的に、自己改革を通じてSDGsの目標達成に貢献しています。



食農教育への取り組み

食の大切さを伝え、食料と農業・自然環境への理解を深める活動を行っています。地元の小学生へ食農についての教材を配布したり、子どもや地域住民を対象に農業体験学習などを行っています。



女性大学の開催

当JAでは、地域に暮らすすべての女性がともに教養を深め、元気な地域づくりと仲間づくりを行うことを目的に、年間を通して農業・生活・健康・美容・食育など幅広い分野を学ぶことができる女性大学を開催しています。



子ども食堂への協力

当JAの農産物直売所では、直売所に出荷する生産者へ事前に寄付の意向があるか確認を取り、販売に至らなかった食材を子ども食堂運営団体に提供しています。



ルワンダへの支援

当JAでは、NPO法人「ルワンダの教育を考える会」を通じて、農産物直売所で販売する米の売上金の一部をルワンダの子どもたちへの支援金として寄付するキャンペーンを展開しています。



フードドライブへの協力

当JA女性部では、食品ロス削減を目的としたフードドライブに取り組んでいます。各家庭で使い切れない食品の提供を部員やJA役職員へ呼びかけ、集まった米やレトルト食品、調味料などを寄贈しています。



スマート農業・DXへの取り組み

ドローンを使った農薬散布や、ICT技術で生育環境を管理するなど最新の農業技術を活かし、生産性の向上を目指した取り組みを行っています。



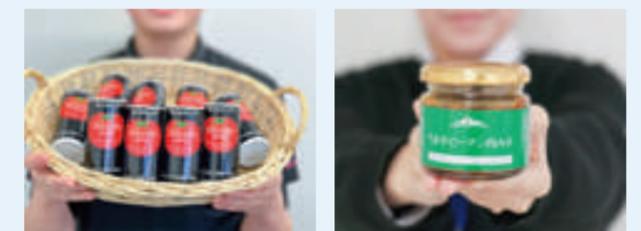
青年連盟と女性部の取り組み

当JAの青年連盟と女性部は、食と農を軸に、支部ごとに様々な活動を行い、仲間とともに支え合う「協同の力」を発揮してJA運営に参画しています。また、支部活動の一環として地元の保育園・幼稚園や小学校で田植え体験や花植えなどの活動を行っています。



6次化商品の開発

当JA加工トマト部会が栽培したトマトを一部使用した「100%トマトジュース」やたむら地区で栽培されているピーマンの規格外品を活用した「うま辛ピーマン肉みそ」、郡山市産米「あさか舞」やいわき市産米「IwakiLaiki」を使用した「パックごはん」など6次化商品の開発にも取り組んでいます。



これからの
未来づくり

JA福島さくら管内の

園芸ギガ団地の 取り組み



園芸ギガ団地とは

現在の日本の米価は、コロナ禍によるインパウンドの減少などによる食品産業の衰退や人口減少、一人当たりの米消費量の減少等もあり、米の在庫が増えた影響などから下落傾向にあります。特に福島県は主食用米の過度な生産依存がされていることから、非主食用米への作付転換を推進しています。また、水田における野菜や果樹等の高収益作物への転換等にあたり、園芸振興に向け、収益性の高い園芸品目の生産や新規就農者の受入、新たな担い手の育成を行い、農業産出額を東日本大震災・原発事故前の水準（2,330億円）まで早期回復させるため、第41回JA福島大会にて「持続可能な『福島の農業』と『JA』の未来づくりを進めるために『ふくしま園芸ギガ団地』構想に取り組むこと」を決議しました。

その中で当JAでは「JA福島さくら園芸ギガ団地」に取り組み、地区ごとの園芸振興品目を推進しています。

各地区での振興品目

地区名	振興品目
郡山	きゅうり
たむら	ピーマン
いわき	長ねぎ・いちご
ふたば	トマト・玉ねぎ

いわき地区

いわき市産の秋冬ねぎは指定産地野菜として登録されていますが、当JAいわきねぎ部会会員113名の平均年齢は73歳と高齢化が進み、担い手数の減少もあり、耕作面積が12.51haと年々減少してきている状況です。令和4年11月から令和5年5月までの秋冬ねぎの出荷量は284t、販売額は6,524万円であり、ピーク時と比較して、耕作面積は14ha、出荷量は616t減少しており、産地としての認知が失われることが予想されます。また、長ねぎ生産に必要な労働時間の61.8%を占めている選別・調製作業は、作業人員確保や選別機の追加投資が課題となり、産地の面積が伸び悩む原因となっています。これまで長ねぎの選別・調製作業は生産者が個別に行ってききましたが、その作業を新築する

長ねぎ選果調製施設が引き受け、生産者の労働時間の削減を図ります。そして、削減した時間を肥培管理や作付面積拡大に力を入れてもらうことで、長ねぎの品質向上や増収に繋げ、市場や消費者の認知度向上と長ねぎ産地としての基盤の確立を目指します。

長ねぎ選果調製施設は平下片寄地区に建設予定であり、令和5年10月より造成工事に着手しています。令和6年度末までに建設を完了し、令和7年度からの稼働を予定しています。また、令和5年度より福島大学といわき市で連携した取り組みも実施し、「JAが提唱しているギガ団地構想（ねぎ）の戦略分析」についてフィールドワークやワークショップを行っています。



いわき地区
長ねぎ栽培
の様子

郡山地区・たむら地区

「JA福島さくら園芸ギガ団地」を成功させるにあたり、令和5年度に新規就農者を中心とした「郡山市園芸ギガ団地組合」及び「たむら地区園芸ギガ団地組合」を設立しました。

高齢化の影響もあり、離農や規模縮小が進む農業情勢の中、当JA管内のきゅうり・ピーマンについては、施設化による省力化及び栽培面積拡大と、近年の単価上昇の影響により、新規就農者が盛んに参入しています。

主な活動内容としては、郡山地区ではきゅうり振興プロジェクトによる「JAふくしま未来管内きゅうり選果場視察」、「郡山市きゅうり指導会への参加」、「郡山市園芸ギガ団地組合視察研修会」を行ってきました。

郡山地区
きゅうり視察
研修会の様子



郡山地区
きゅうり指導会
の様子



たむら地区では、「労働力確保に関する勉強会」、「JA岩手ふるさとへの視察研修会」、「スマート農業コンソーシアム設置検討会」、「新田組合長によるパイプハウス栽培指導会」を開催しました。また、たむら地区園芸ギガ団地組合については、施設化の要望が生産者より多数挙げられたため、令和6年度申請についても現在準備しております。

今後JAでは、新規就農者の支援を強化していくとともに、20年・30年後を見据え、伴走支援出来るような若手指導員の育成強化を図っています



ふたば地区

トマトの養液栽培

ふたば地区では、双葉町とJAが連携し、栽培面積約1ha規模のトマト栽培を計画しています。今後建設予定のトマト養液栽培施設は、最新の環境制御設備等により安全性が高く高収量を可能とする施設で、双葉町の農業再生のシンボルとして新たな担い手の育成や雇用の拡大が期待されます。トマトの栽培開始時期は令和9年を予定しており、最終生産量が年間500tを目指す施設となります。

玉ねぎ栽培

ふたば地区は土地利用型地域振興作物として玉ねぎ栽培を推奨しています。令和3年5月には広野町から南相馬市までの1市5町が新規野菜指定産地の指定を受けており、現在JA福島さくら管内では19戸の農家が産地化を目指して生産拡大に取り組んでいます。富岡町では新たな野菜集出荷施設が完成し、令和6年3月からJA福島さくらが管理・運営を行っています。この施設により効率のよい乾燥、選別、貯蔵を行うことで商品化率は向上し、高品質な玉ねぎを安定的に出荷することが可能となります。将来的には新たな生産者も増やして、ふたば地区管内で80haまで作付面積を伸ばし、市場出荷や加工向け販売など、新たな販路を拡大しながら農家所得の向上を図っていきます。



ふたば地区
玉ねぎ指導会
の様子





JA福島さくらの 福祉事業とサービス内容

高齢化社会が進む中、当JAでは、地域に密着した福祉事業を展開し、組合員と地域の皆さんに安心してご利用いただける事業所を目指しています。当JAサービスには、「訪問介護」「デイサービス」「小規模多機能型居宅介護」「グループホーム」等があります。今回は、それぞれのサービスにどんな特徴があるのかご紹介いたします。



小規模多機能型居宅介護（地域密着型）

施設への「通い」を中心に、短期間の「宿泊」や自宅への「訪問」を組み合わせてサービスを提供し、生活支援や機能訓練をひとつの事業所で行うサービスです。小規模のため利用者ひとりひとりに寄り添ったケアを受けることができ、ケアプランの作成からサービスの提供まで同じ事業所が行うため、利用者とスタッフ、利用者同士が顔見知りになり、アットホームな雰囲気が特徴です。

グループホーム （認知症対応型共同生活介護）

認知症の利用者さんが共同で生活しながら、家庭的な環境と地域との交流の下で、食事や入浴などの生活支援や機能訓練などのサービスを提供しています。

Q.どんな人が利用できるの？

事業所のある市区町村在住で、要支援1～要介護5の認定を受けている方が利用できます。

Q.どんな人が向いているの？

同じ事業所、職員で通い・訪問・宿泊サービスを提供しているため、新しい環境に馴染みにくい人でも安心して利用することができます。また、1カ月単位の定額制のため、体調の変化によって3つのサービスを組み合わせて利用したい方向いています。当JAでは、小規模多機能型居宅介護とグループホーム（認知症対応型共同生活介護）を併設した事業所もございます。

訪問介護

訪問介護員が利用者さんの自宅に訪問し、入浴・排泄・食事等の介護、掃除・洗濯・調理等の支援を行うサービスです。

Q.どんな人が利用できるの？

要支援1～要介護5の認定を受けている方が利用できます。

Q.どんな人が向いているの？

訪問介護員が利用者さんの自宅を訪問してサポートするため、慣れない場所でストレスを感じてしまう方や、住み慣れた自宅で過ごしたい方向いています。利用者の健康状態や希望に応じて、サービスの内容を選択できます。

デイサービス（通所介護）

自宅から施設へ通い、日帰りで受けられる介護サービスです。利用者さんが可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、日常生活上の支援や生活機能向上のための機能訓練や口腔機能訓練など目的に合わせた選択的サービスを提供しています。

Q.どんな人が利用できるの？

要支援1～要介護5の認定を受けており、自宅が施設の送迎範囲にある方が利用できます。

Q.どんな人が向いているの？

生活機能訓練や口腔機能訓練だけでなく健康チェックなども行っているため、健康維持や向上を目指す方向いています。また、機能訓練として行われるレクリエーションや運動を通して、他の利用者との交流もできるため、自宅から出て人と触れ合いたい方にもおすすめです。

その他の介護サービス

居宅介護支援

幅広い知識を持った福祉の専門家であるケアマネジャー（介護支援専門員）が、介護サービスを必要とする本人や家族の相談窓口になります。心身の状態に合った適切なサービスを利用するためのケアプランを作成し、サービス事業所との連携を図り、様々な情報提供やアドバイスをいたします。

福祉用具レンタル・販売

日常生活の自立支援や介護負担の軽減に用いることを目的に、利用者さんの状態に応じた福祉用具のレンタル品の提供や入浴用具や排泄用具等の特定福祉用具の販売品を提供しています。

歯科診療所

外来歯科診療では通院もしくは無料送迎車を利用して治療を受けることができ、在宅歯科診療においては、寝たきり、あるいは病気などで通院が困難な方を対象に、在宅や入院、入所先で歯の治療を受けることができます。歯科医師・歯科衛生士がご自宅や施設などを訪問して診療いたします。

要支援・要介護とは？

日常生活の中でどの程度の介護（介助）を必要とするのか、介護の度合いをあらわす指標です。厚生労働省が基準を定める「要介護認定基準時間（介護にかかる時間）」をベースに7段階に区分され、それに「自立」を合わせて合計8段階に分けられます。



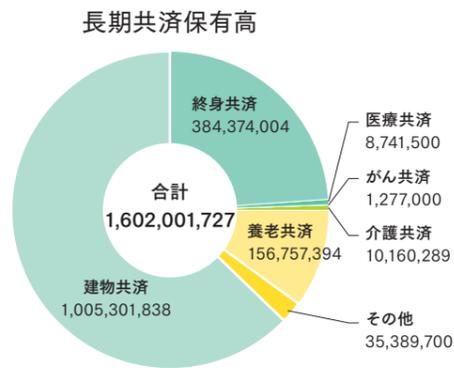
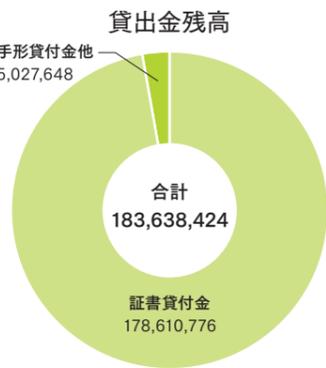
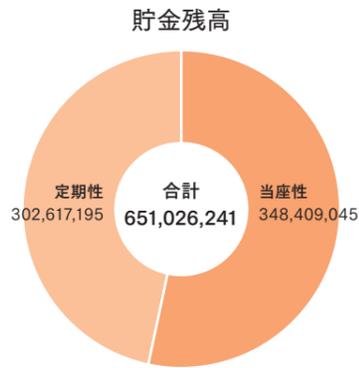
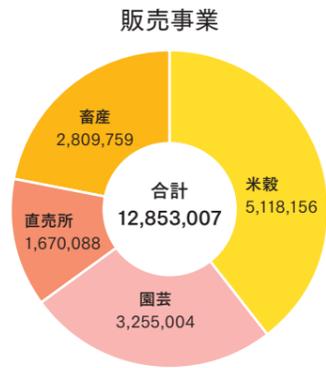
福祉事業の事業所一覧

地区	事業所の名称	事業所の所在地
	サービスの種類	電話番号
郡山地区	郡山福祉センター	郡山市八山田西五丁目 123
	■居宅介護支援	☎ 024-935-8185
	■訪問介護	☎ 024-935-8182
郡山地区	日和田デイサービスセンターひなた	郡山市日和田町日向 6-1
	■デイサービス	☎ 024-968-1001
	は～とらいふ八山田	郡山市八山田西五丁目 123
郡山地区	■小規模多機能型居宅介護	☎ 024-935-8181
	■グループホーム	//
	たむらふれあいセンター	田村市船引町船引字南町通 160
郡山地区	■居宅介護支援	☎ 0247-82-6175
	■訪問介護	//
	■福祉用具レンタル・販売	//
郡山地区	小野ふれあいセンター	田村郡小野町大字小野新町字品ノ木 44-2
	■訪問介護	☎ 0247-71-1235
	デイサービスセンターきらら	田村市船引町今泉字鳥足 340-1
郡山地区	■デイサービス	☎ 0247-82-1411
	は～とらいふ船引	田村市船引町東部台六丁目 46
	■小規模多機能型居宅介護	☎ 0247-73-8580
郡山地区	は～とらいふ常葉	田村市常葉町常葉字長生内 8-1
	■小規模多機能型居宅介護	☎ 0247-73-8668
	は～とらいふ三春	田村郡三春町大字平沢字担橋 140-3
郡山地区	■小規模多機能型居宅介護	☎ 0247-61-6541
	■グループホーム	//
	は～とらいふ小野	田村郡小野町大字八津作字鬼石 32-2
郡山地区	■小規模多機能型居宅介護	☎ 0247-73-8666
	は～とらいふ小野・やまだ	田村郡小野町大字小戸神字霞作 91-4
	■小規模多機能型居宅介護	☎ 0247-73-8782
郡山地区	きらら歯科医院	田村市船引町今泉字鳥足 340-1
	■歯科診療所	☎ 0247-61-6755
	いわき福祉センター	いわき市自由ヶ丘 39-2
郡山地区	■居宅介護支援	☎ 0246-28-9102
	■訪問介護	☎ 0246-28-9105
	いわき南福祉センター	いわき市後田町柳町 52
郡山地区	■居宅介護支援	☎ 0246-38-5701
	■訪問介護	//
	三和デイサービスセンター	いわき市三和町下市重字竹ノ内 114-1
郡山地区	■地域密着型デイサービス	☎ 0246-86-2588
	草野デイサービスセンター太陽	いわき市平下神谷字馬洗 39
	■デイサービス	☎ 0246-34-0750
郡山地区	デイサービスみなみ	いわき市後田町柳町 52
	■デイサービス	☎ 0246-38-5702
	のぞみ歯科医院	いわき市後田町柳町 52
郡山地区	■歯科診療所	☎ 0246-38-5703
	めぐみ歯科医院	いわき市自由ヶ丘 39-2
	■歯科診療所	☎ 0246-28-9140
郡山地区	高齢者生活支援事業所	いわき市自由ヶ丘 39-2
	■保険外サービス	☎ 0246-28-9105

（令和6年6月30日現在）

事業実績 (単位/千円) ※端数未調整

(令和6年2月末日現在)



旅行事業

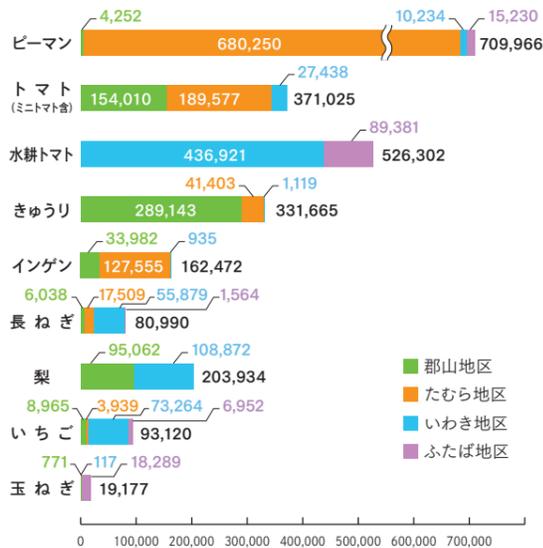
13,298

福祉事業

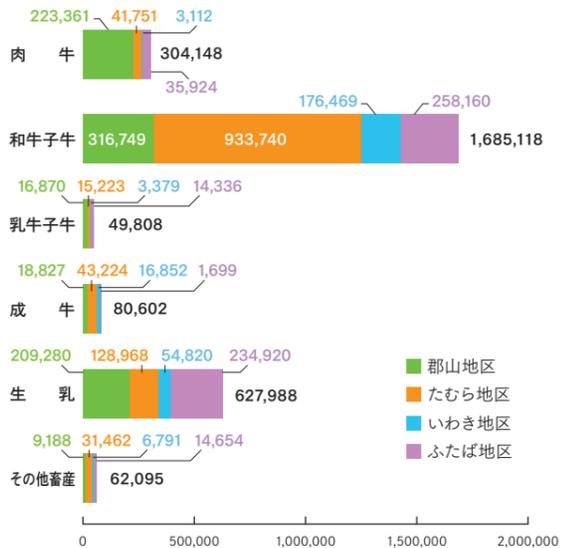
1,186,781

農業基盤 (令和6年2月末日現在)

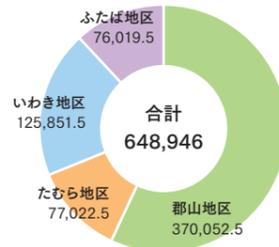
園芸主要品目の販売実績 (地区別) 単位/千円



畜産販売実績 (地区別) 単位/千円



米集荷実績数量 (地区別) 単位/俵数/60kg



より身近に、より信頼されるJAづくりの実践

JA 福島さくらの経営方針

事業案内

復興対策

東日本大震災・原発事故により被災された組合員が一人でも多く地元へ帰還し営農再開を果たすことが出来るよう、被災地域の復興加速を最優先課題として取り組んでいます。被災地域の営農再開支援・風評被害対策の取り組み・避難されている組合員への総合支援・原発事故に伴う損害の万全な補償対策等が主な取り組みです。



販売事業

安全・安心で信頼される農畜産物を安定的に提供できるよう、需要に応じた生産・販売体制の強化に取り組んでいます。地産地消運動を推進し、管内で生産された農産物を地域のみなさまに提供するため、直売所間産地リレーの運営など積極的に取り組み、農業者の所得向上を目指しています。



信用事業

組合員の皆様からお預かりしたお金を原資とし、農業資金や生活向上資金として融資しています。JAの信用事業は「JAバンク」として全国のJAと手を携えた「JAバンクシステム」により安全に事業を行っています。地域に密着した金融機関として利用者の利便性を維持するため、令和3年3月1日より「移動金融店舗さくらちゃん号」の運行を開始しました。



農業振興・営農指導

営農指導活動や担い手支援活動を通し、多様化・高度化する組合員ニーズに応え、生産支援の充実を図り、持続可能な営農を目指します。



購買事業

良質な生産資材や生活資材の供給、サービス向上と事務の効率化などにより経営基盤を強化し、経済事業改革に取り組んでいます。



福祉事業

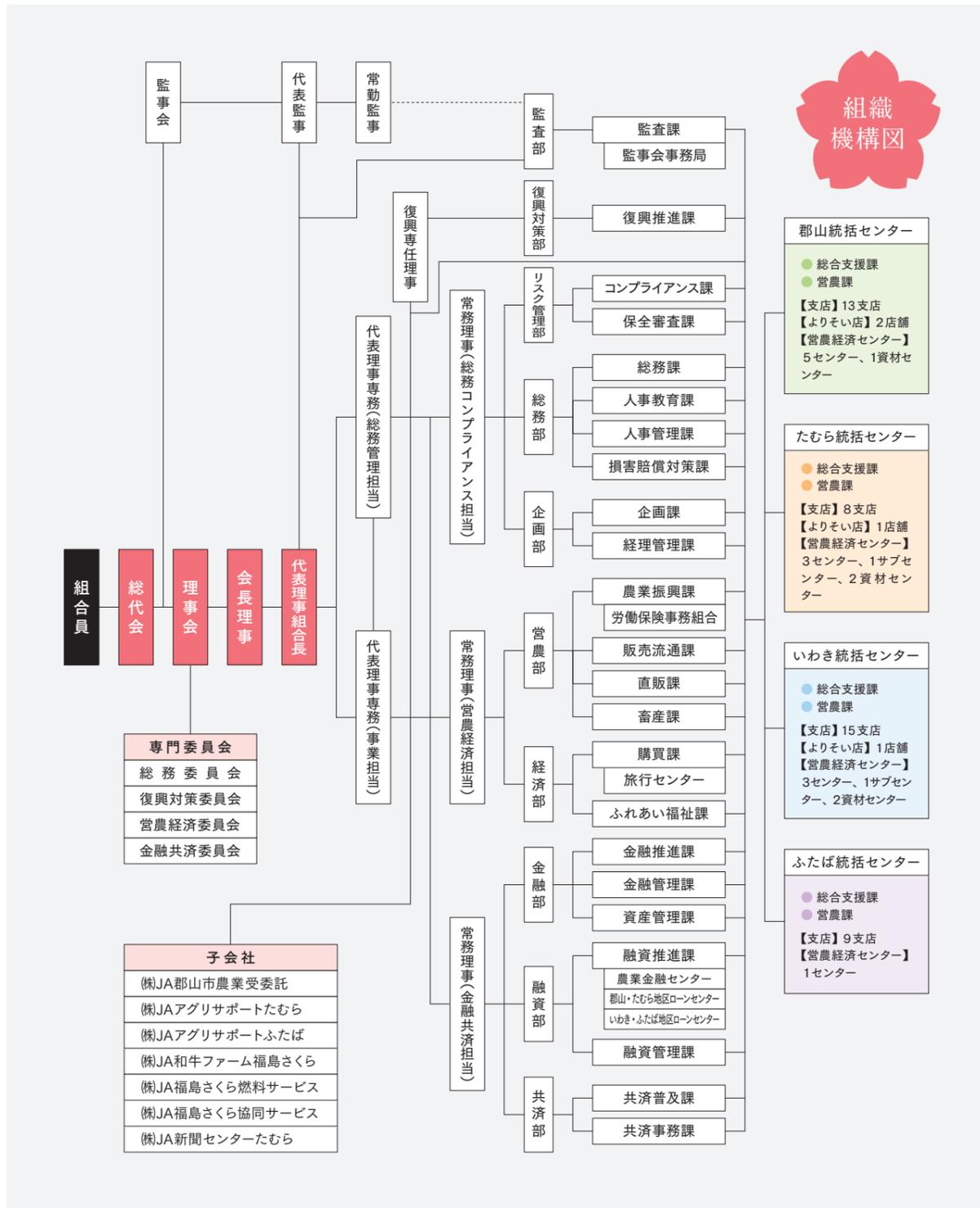
地域に密着した福祉・医療サービスの提供により、利用者のご家族が笑顔に包まれ穏やかに暮らせる地域づくりのお手伝いをしています。



共済事業

JA共済は、相互扶助を事業理念としています。「ひと・いえ・くるま」の総合保障を提供し、組合員の生活を守っています。





- 農産物直売所**
- あぐりあ
 - 旬の庭
 - ふあせるたむら
 - 新鮮やさい館谷川瀬店
 - 新鮮やさい館平窪店
 - 新鮮やさい館好間店
 - ファーマーズマーケット いがっぺ

- 福祉センター**
- 郡山福祉センター
 - 日和田デイサービスセンターひなた
 - は～とらいふ八山田
 - たむらふれあいセンター
 - 小野ふれあいセンター
 - は～とらいふ船引
 - は～とらいふ常葉
 - は～とらいふ三春

- 歯科診療所**
- JA 歯科診療所きらら歯科医院
 - JA 歯科診療所めぐみ歯科医院
 - JA 歯科診療所のぞみ歯科医院
- 農機センター**
- たむら農機センター
 - いわき農機センター
- 給油所**
- 大熊給油所

SNSで

只今、情報発信中!

JA福島さくらでは、SNSを活用して管内の様々な情報を発信しています。

LINE

JA福島さくらの旬な農産物情報やイベント情報などをリアルタイムに発信中!
また、担い手向けの支援情報も発信中!

【一般向け】
【担い手向け】

イベント情報ほか

Youtube

JA福島さくら公式「さくらちゃんネル」では、管内の農産物を使用したレシピ動画や、管内をドローン撮影した「ドローン日記」を発信中!

PCサイト

Facebook

JA福島さくらの楽しいイベントや農産物直売所情報などを発信中!

PCサイト
スマートフォン

Instagram

JA福島さくら管内の農産物直売所7店舗の旬な情報と、お得な情報を発信中!

直売所情報
旬のお野菜紹介
取組み紹介

※SNS … ソーシャル・ネットワーキング・サービス(Social networking service)の略で、インターネット上のコミュニティサイトのことを指します。ユーザーが情報発信したり、ユーザー同士が交流できる仕組みの総称です。

